

ふえる女子スラックス

「自分は男でも女でもない」

青森山田高校で女子スラックス導入の機運が高まったのは、ある一人の生徒の存在がきっかけでした。「自分は男子・女子のどちらでもなく、制服のスカートがはけないし、ピンクのリボンがつけられない」。その生徒は常にジャージで学校生活を送り、集会や式典など制服着用が必須の行事（入学式・始業式・終業式など）には参加せず、保健室登校が欠席していました。

青森山田高校の制服



「好きなスタイルで楽しく」と選択肢の多さをわかりやすく紹介している

「2度とない高校生活を有意義に、楽しく過ごしてほしい」。学校側と本人・保護者で対話を重ね、制服業者とも密に検討。スラックスは幅広タイプとスリムタイプの2種類を用意。ネクタイは新たに3種類を追加し、そのうち一つは生徒の意見を取り入れました。最終的には、スカート・スラックス・5種類のリボンとネクタイの中から好きな組み合わせを可能とし、どのパターンも正装として認めるという大きな制服改革が実現したのです。組み合わせ

理由は一つじゃない

同校では、制服改革の意義として、特にLGBTについて強調することはせず、あくまで機能性に関するメリットを説明しました。実際、過酷な青森の冬を過ごす学生にとって、防寒は命にも関わることです。また生徒自身、制服の着こなしの自由度を上げることが、思春期の子どもたちにとっては歓迎すべき提案だったでしょう。教員たちも元々パンツスタイル派が多く、防寒対策や機能性のメリットについて疑問を呈する声はありませんでした。他にも「スカートは自転車の車輪に巻き



学校制服 広がる選

込まれそうで怖かった」「集会などで体育座りする時に中が見える心配がない」「日焼けしない」など、日常の危険や煩わしさから解放された生徒たちには軒並み高評価でした。

男女関係なく

「入学してすぐの頃は周りの反応が怖かった」。自分にはスカートよりも似合うから、という理由でスラックスを選択したという女子生徒は、入学直後の心境をそう振り返ります。しかし、思った以上に好意的に捉えられることが多かったと言います。スラックスの話題から繋がった人間関係もあったそう。「今では自分がスラックスをはいていることを忘れるくらい自然に生活している。悩んでいる人は、もっと気軽に考えてみても良いかも」と話します。スカートを選択した女子生徒（1年）は「スカートの方が可愛い」と話しますが、「自分はこっちの方が好きというだけ。スラックスをはいている友達も、可愛いし格好いい」と笑顔で話していました。まだまだ女子スラックスを選択している生徒の割合は多くありません。スラックスだけを購入したというある女子生徒（1年）によると

「スラックスをはいている生徒はひとクラスに2〜3人程度」。本年度からの導入ということもあり、これからの周知も課題です。

また、同校では現在、スカートを選択している男子生徒はいません。全国的に見ると導入・着用例が増えている男子用スカートですが、性的少数者団体から「カミングアウトの強要につな

がる」との指摘を受けることも。女子のスラックス着用よりもハードルが高いのが現状です。ある女子生徒はアンケートにこう話します。「自分の嫌いなものを無理に着る必要が無いのは良いこと。これからはもっと自由に、男女関係なく制服を楽しむことができる学校が増えてほしい」

（取材…石岡 沙野）

女子スラックスを導入している学校

県内高等学校

【県立】

- 弘前高校（弘前市）
- 弘前南高校（弘前市）
- 三本木農業恵拓高校（十和田市）
- 五所川原工科高校（五所川原市）
- 八戸東高等学校（八戸市）

【私立】

- 青森山田高校（青森市）
- 向陵高校（八戸市）
- 千葉学園（八戸市）
- 八戸工業大学第一高校（八戸市）

県内中学校

- 青森市立南中学校
- 青森市立古川中学校
- 青森市立沖館中学校
- 青森市立横内中学校
- 八戸市立三条中学校

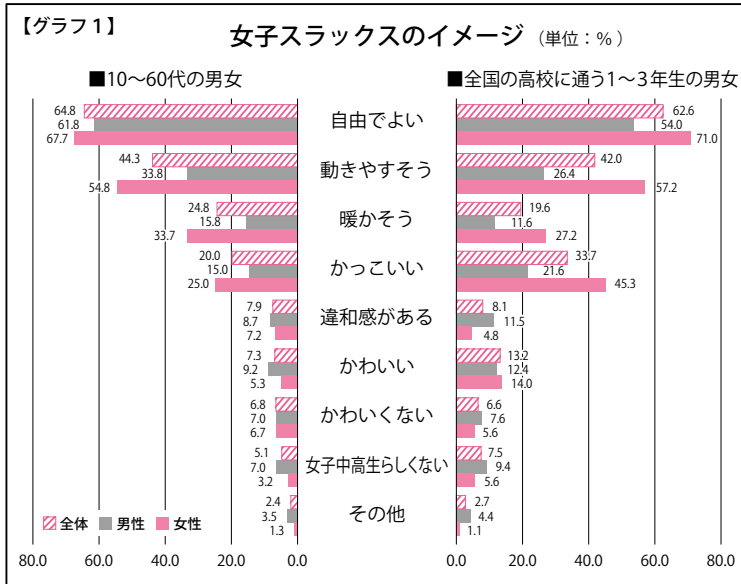
etc.

女子スラックス どう思う?

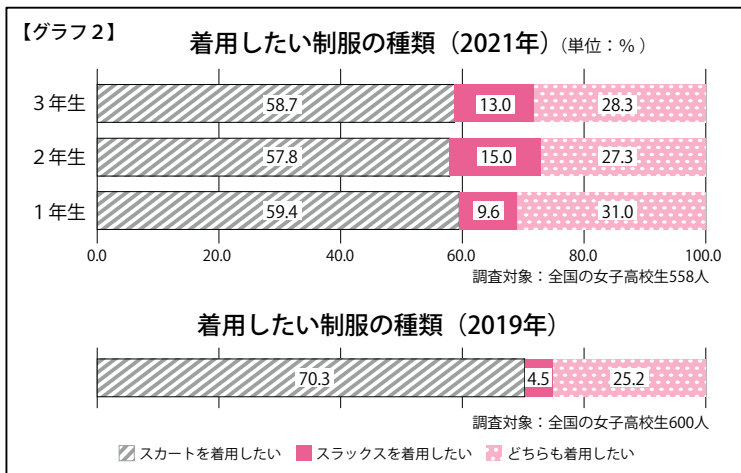
カッコいい?

かわいく
ない?

男らしく、女らしくから「自分らしく」へ



女子制服としてのスラックスは、1990年代頃から冬の寒さ対策や自転車通学時に良いという理由で、数校の中学校・高校で導入されたのが始まりと言われています。全国の学校で導入が進む女子制服のスラックスについて、人々はどういうイメージを持っているのでしょうか。学生服メーカー大手として知られる菅公学生服株式会社(カンコー)が2022年6月、10～60代の男女1200人を対象に行ったインターネット調査によると、女子スラックスのイメージは、全体平均では「自由でよい」(64・8%)「動きやすそう」(44・3%)、「暖かそ



う」(24・8%)、「カッコいい」(20・0%)というポジティブな回答が上位を占めました。

一方で、少数ながら「違和感がある」(7・9%)、「かわいくない」(6・8%)、「女子中高生らしくない」(5・1%)といったマイナスイメージも。また、男性に比べて女性の方が、女子スラックスに対して肯定的でした。(グラフ1左参照)

高校生自身はどのように考えているのでしょうか。同社が2021年6月に全国の高校に通う1～3年生の男女1099人対象に行った調査によると、全体で

は「自由でよい」(62・6%)という回答が最も多く、「動きやすそう」(42・0%)、「カッコいい」(33・7%)、「暖かそう」(19・6%)、「かわいい」(13・2%)と大半が肯定的な意見であり、「違和感がある」(8・1%)、「女子中高生らしくない」(7・5%)、「かわいくない」(6・6%)といったマイナスイメージは少数でした。(グラフ1右参照)

高校生でも、男子に比べて当事者である女子のほうが肯定的な回答が多い傾向でしたが、一方で「スカートとスラックスのどちらを着用したいか」の問いに女子の6割が「スカートを着用したい」と回答。学年による違いはほぼなく、依然スカート派が多数のようです。(グラフ2参照)

しかし、同社が2019年に行った同様の調査と比較したところ、着用したい制服として「スラックスを着用したい」や「どちらも着用したい」と回答している女子生徒は確実に増えています。

「女子はスカート、男子はスラックス」が一般的だった制服に対する価値観が、劇的に変わってきています。「男らしく」「女らしく」から「自分らしく」の時代へ。画一性の象徴と言われてきた「制服」の世界も、多様性の時代が訪れたと言えるのではないでしょうか。

(担当: 石岡 沙野)

出典: 菅公学生服株式会社 カンコー
ホームルーム <https://kanko-gakusei-fuku.co.jp/media/homeroom>